

交叉点24

明高24回生通信

20th/Jan. / 2014

「還暦に寄せて」

武岡 徹

たしか論語の中に、「四十にして惑わず 五十にして天命を知る」と云う言葉があったように思いますが、八十を目前にした私など、年を重ねるほど、妄念が湧くばかりです。が、それでいいのだと開き直っています。皆さんはいかがですか。さて河合昭彦君から交叉点「還暦記念号」に何か書くようにという依頼があったのに、切り期日がきてしまいました。河合さんと話しあった結果、三年前に上梓した随筆「航跡」の続きで今年の初夏に書いた「東京ノスタルジーⅡ」で勘弁してもらいました悪しからず。

東京ノスタルジーⅡ

映画会社から、今撮影中の「ビルマの豎琴」の中で使いたいという歌のアルバイトの依頼があったのは、私が国立音大の二年生の秋であった。「君たち行ってみませんか」と学生課の人から私達音楽科の学生に声がかかった。日曜日一日の予定だったので私は喜んで引き受けた。映画「ビルマの豎琴」は昭和証年（1956年）1月公開予定の日活映画で、市川崑監督によって、日活多摩川撮影所で制作された。原作



は竹山道雄、そのあらすじは、昭和加年7月ビルマ（今のミャンマー）が舞台になっている。アメリカ、イギリス、オランダ、支那と戦った太平洋戦争も、あと一か月足らずで敗戦を迎えるこの時期、日本軍の戦況は弾薬や物資の不足は云うに及ばず、食糧に

も事欠く、目も覆いたくなるような悲惨な中で、連合軍の猛攻にお手上げの状況であった。そのような中で、音楽学校出身者の隊長が率いる小隊があった。隊長は隊員に、合唱を教えた。隊員たちは、歌うことによって隊の規律を保ち、苦しみや不安を克服しようとしていた。隊員の中の水島上等兵には楽才があり、ビルマ伝統の豎琴（サウン・ガウ）の演奏が上手で、隊員たちに人気があった。その上、水島はビルマ人の扮装も巧みで、斥候に出れば、敵の状況を琴による暗号で部隊に知らせたりしていた。とにかくこの映画の中では、隊員たちが歌を歌う場面が多く、そのために私たちが必要だったのである。私は映画にも興味があり、高校時代には、太秦にあった松竹京都撮影所を見学に行ったことがあった。撮影が始まるまでに来てくれと言うことで、朝早く出かけて待っていると、浴衣姿の小柄な美人が、下駄ぱきで洗面器と手拭いを手に、私の目の前をすーつと通り過ぎて行った。私はおや、月丘夢路によく似た人だなと思ったが、信じられない気持ちで後姿を眺めた。やがて、撮影が始まるので中に入りなさいと言われて、木造の倉庫のような所に入ると、ハイヒールにコートを羽織り、すっかりメイキャップをした月丘さんが立っていた。その姿はすらっと背が高く、よくスクリーンで見る通りであった。その時の映画の題名は忘れたが、相手役は二枚目スター若原雅夫だった。この二人のコンビは、名画「長崎の鐘」でも、永井隆博士と奥様の役で出演している。休憩時間にお二人にサインをもらったことを覚えている。後の話になるが、私が明石高校から母校芦屋高校に転勤になった時、2年生のクラスに、自治会長（生徒会長）をしていた大柄で元気な青年、児玉洋介君がいた。彼が若原雅夫さんのご子息だということは後で知ることになるのだが、児玉君は3年生でも引き続き音楽の授業を選択していた。ところで、昭和前年度の全国高等学校音楽教育研究会が兵庫県での開催されることになった時、教育委員会と先生方の話し合いの中で、公立は県立神戸高校、私立は甲南女子高校が研究授業を担当し、会場は、新築さ

れたばかりの甲南女子高校のすばらしい音楽教室を使用することになっていた。新学期の慌ただしさもやっと落ち着いたある日、県教育委員会から電話があり、来年の全国大会の授業をぜひ引き受けてもらいたい、学校長にも話は通してあるので、今年の会場である長野県に、視察のため出張してほしいとのことであった。この依頼は、私にとっては全く急なことで、何の考えも持ちあわせていなかった。そこで私は教育委員会との話し合いで、研究授業に合わせた特別なことはしたくありません、いつものままの授業でよければお引き受けしましょうと言って、了承を得た。さて何年生のどのクラスを使おうかと頭をひねったが、結局、児玉君のいる3年生のクラスを選んだ。芦高生は、誰にも何事にも物怖じしない気風、特徴を持った生徒が多く、児玉君は生徒会長の2年生の時、芦高名物の記念祭の目玉の出し物のため、広島まで出向いて、原爆記念館所有の、持ち出しが大変難しい大事な品物や資料を、借りてくることを約束してき

た。その話を聞いた学校長が、青くなったこともあった。研究授業の日は、全国から参加した多数の先生方の前で、生徒たちは、特に緊張した様子もなく、いつも通り、伸びやかに楽しい雰囲気の中で無事授業を終えることができた。翌週、その3年生の授業の時「この間の研究授業ではありがとう、おかげで評判もよく面目が立ったよ」というと、児玉君が「先生、僕たちは充分授業を盛り上げ協力したから、これから入試までの授業では、内職も大目に見てください」と言った。その堂々とした屈託のない態度に私は、さすが俳優の息子だなと思った。その児玉君だが、アメリカからの帰り、たまたま乗り合わせた

日本航空機が、御巢鷹山に墜落するという大惨事に巻き込まれて、大空に散ってしまった。あの笑顔を思い出しては、今も信じられない気持ちで冥福を祈っている。



月丘夢路さんには、その後お目にかかるような機会はなかつた。月丘夢路さんには、その後お目にかかるような機会はなかつたが、一度こんなことがあった。ある時、レッスンで柳先生のお宅に伺うと、先生が、午前中に月丘夢路さんがご主人と一緒に、結婚の挨拶に来られた、と笑顔で話された。ご主人とは、映画監督の井上梅次さんのことである。私が国立音大を卒業



した、昭和銘年頃のことだと思う。この原稿を書くにあたって、井上梅次監督の来歴を調べてみると、京都生まれで、慶応大学経済学部在学中の1943年に応召、1945年復学、卒業後は新東宝に入社、脚本を次々に発表して、わずか5年で「恋の応援団長」で監督に昇進。その後日活に移って、石原裕次郎の映画を担当し「嵐を呼ぶ男」を大ヒットさせた書かれている。大学からの帰り道、何回か吉祥寺や下北沢で、柳先生と一緒に映画を見たことがあった。その時私は、月丘夢路さんのファンだと口をすべらせたことから、先生がそのような話をされたのだと思う。「ビルマの豎琴」は井上梅次監督が活躍された、同じ日活撮影所で撮影された。調布にあった日活多摩川撮影所は、空調設備も整った立派な建物で、当時近代的な東洋一の撮影所と言われていた。約束の時刻に撮影所に行くと、市川監督は私たちをにこやかに迎えてくれた。市川監督は大正9年生まれ、私より皿歳年上だから、この時剥歳の若い監督だった。後には東京オリンピックの映画を撮影し、話題を呼んだが、その後も、素晴らしい映画たくさん世に送り、日本を代表する名監督戊樺を欲しいままにした。その後ずい分有名になった、煙草をくわえた市川スタイルだ堀この時も、くわえ煙草の仕事振りはなかなか格好よかった。スタジオ内に案内される

と、音楽担当の作曲家、伊福部昭が待っていて、仕事の打ち合わせが始まった。この映画は、所謂アフレコで、映画を見ながらセリフや音楽をはめ込んでいく。配役は水島上等兵を安井昌一、井上隊長は三国廉太郎、物売りの老婆を北林谷栄、他にも西村晃、伊藤雄之助など名優が顔を並べていた。今回は、今では考えられないような贅沢な撮影の様子から始めようと思う。

『ひとこと』

高田美智子



11月に入って、日一日と秋が深まり、年の瀬の足あとが感じられる季節となりました。

この度、皆様方が還暦を迎えられた事を、お喜び申し上げますと共に、今さらながら過ぎ去った年月を思い、感傷にひたっています。私が定年を迎えた年には阪神淡路大震災が起こり、この度は東日本大震災とそれに伴う福島原発事故が起こりました。又、今年九月から十月にかけて台風が18、24、26、27号と次々に日本列島に押し寄せ、伊豆大島などに多大の被害をもたらしました。

「技術革新」や「経営刷新」を意味する「イノベーション」という言葉がありますが科学技術が発達した現代にあっても、そのスピードに遅れずについていくのは簡単ではなく、「自然の力」の大きさを認識させられた昨今です。

インターネットが普及し、安易にコミュニケーションを取る事の出来る世の中になりましたが、人間関係をより豊かにするためには「ひと手間かける」心のゆとりが必要になるのではないかと思います。

「手間を惜しまない」というのは、日本の良き伝統ではないかと思います。そして、これこそ日本文化の「おもてなし」の心に通じるものだと思います。人と人との縁を強くし深めていきたいと思っています。

60歳は、人生のひと区切りですが、人生にゆとりが出来る最上の時期でもあります。皆さん方のこれからの人生に「幸多かれ」と願い、今まで時間的に出来なかった事に目を向けられる事をおすすめしたいと思います。

今朝、朝日テレビに小堀義光氏が計画実施する「ガ

モコレ」一巣鴨コレクションで、60歳以上のシニアがステージを生き生きと歩いていました。最高齢は90歳とか。私もあやかって周囲に迷惑をかけず頑張ってゆきたいと思いました。

「還暦に寄せて」

中尾健二



二十四回生の皆さん、還暦おめでとうございます。いよいよ第二の人生、門出ですね。私はいま七十路半ば過ぎ。そこから自分の現役引退後を見ますと――加齢による身体能力の低下や家庭環境の変化に素直に向き合い、「自由な時間を十分に生かしたい」と、そんな念いできたように思います。

その六十路。「趣味は」と問われると、「はて、散歩かな」と応えるくらい。今は「探鳥（野鳥観察）です」と言えるようになりました。

三人暮らしのなか義父が旅立ち、その折菩提寺の檀信徒になりました。そこで般若心経と出会い仏前で読誦するようになりました。また、家事の手伝いをするようにもなりました。

七十路半ば過ぎ、家内が旅立ち、独り暮らしになりました。「残念無念」。日常を支えてくれたのは、般若心経と家事手伝いの経験、そして探鳥と気遣って下さった人達でした。

今は、「無理せずぼちぼち着実に」を心掛けて暮らしています。

皆様の平和な家庭と充実の日々をお祈りいたします

「還暦に寄せて」

小倉隆興



昭和二十九年、明高九回生が入学、同年二十四歳で私は着任し、当時の明高生が大学進学への一本路線をたどり、一心に頑張っている姿を見て感心した。

私の学生年代は戦争で、戦闘機製造、戦後の処理に動員され、勉強は隠れてむさぼるしかなく、人生への手掛かりもなかった。そ

んな中でひらめいたのは「自分で考え、自分で実行する」という単純な考えで、その思いを根本理念として教職に就いた為「勝手なことばかりする」とお叱りを受けることが多かった。

そんな中で教師・生徒が一体となって進もうと計画・実施したのが十八回生からの野外活動、次いで二十一回生から改革した修学旅行で、帰校後「大成功」の歓声が挙がり、忽ち日本中に広まっていった。こうした気風を更に深め、固めていったのが二十四回生であったように思う。二十四回生の皆さん、還暦を機に更に切磋琢磨の上、一層輝く栄光を期待します。

「還暦にあたって」

中嶋忠幸

人生は、本当に思い通りにならないものです。人間には「ないものねだり」の欲望があります。が必ずしもその通りになるものではありません。私達の人生には常に欲求不満で大人になり、そこから



生まれる悩みや怒りなどに振り廻されるものですから、人生は苦難に満ちたものだと思ふに生きてゆくしかないと思います。「過去を追うな。未来を願うな。今の足下を見よ」と思います。「あの時こうすればよかった」と思っても元には戻れません。又、未来の事であっても、先の事は分からないのですから考えても仕方がありません。それよりも今という瞬間を一所懸命に生きる事の方が大事です。確かに過去の事を踏まなければ生きられないし、未来に対する夢をもたなければ生きる甲斐もありません。それでも過去にこだわり過ぎると、過去が崩れてしまいます。今すべき事を努力してゆかなければならないという事です。人生は山あり谷ありです。山も谷も避ける事はできないという事をどの様に受け止め、自分なりに幸福を信じられる人生へとつなげていくかについて、考えたいと思います。皆さんの将来に幸多かれと望むばかりです。

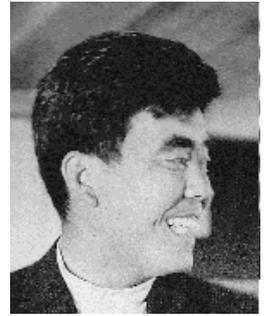
「還暦同窓会に寄せて」

高德雄三

先般の明石高校 24 回生の還暦同窓会、ご招待あり

がとうございました。準備や当日の進行等すばらしい内容でした。

以前、私が自彊会だよりに寄稿した際「母校で過ごした3年間は、ある年齢に達すると悲喜こもごも、新しく特別な意味を持って蘇って来る」と書きました。皆さんはどうですか。



私は 18 年前に還暦を迎えました。私事ですが、教員生活 38 年目最後の年でした。その時なぜか童謡の「船頭さん」の歌詞が浮かんで来たことを思い出します。

「村の渡しの船頭さんは、今年 60 のおじいさん。歳はとってもお船をこぐ時は、元気いっぱい櫓がしなる」この歌詞が作られた時代なら 60 歳はお爺さんだったんでしょうが、渡しはお爺さんという意識は全く生まれませんでした。それどころか、年明けには阪神淡路大震災が起こり激動の年となりました。自宅は全壊の判定を受ける状態でしたが、学校の責任者として交通網遮断の中 50cc のミニバイクで尼崎まで通いました。

かつて人生 50 年と言っていた時代、数え年 61 歳はまさにおじいさん、おばあさんでしょう。しかし、現代では還暦は間違いなく人生が改まる年代です。皆さんにとっては新しい人生のスタートです。昔の仲間との新しい付き合いも始まるでしょう。健康ご多幸の日々を祈ります。

平成 25 年 9 月吉日

「吹っ飛んだ授業」

吉川 秦



小生も若かった。24 回生、高一 X 組の普通教室での最終授業。「今日はさよなら授業だなー」。つぶやいた小生もいささかおセンチな気分だったのだろう。これを敏感に受けとめてか、やんちゃも何人かいるクラスだったが、皆なの態度は、この日ばかりは実に静かで、それが却って感傷的な授業にしてしまった。ところで、授業も終り近く、静けさを破って窓から

2列目あたり、「プワーン」と妙音が発せられた。静けさの中で発せられた圧力の利いた大物だったのでよく響いた。少々おかしかったが、不思議に誰も笑わなかった。3月の風は冷たく、すべての窓は閉め切られていたが、爆発点近くの窓際の1人が、スルスルと窓をいっぱいにかけてガス抜きときたからたまらない。こらえていた笑いが堰を切って校舎を揺るがした。“屁一発”で最後の授業は吹っ飛んでしまった。

「還暦同窓会に招かれまして」



中島美智子

24回生、還暦会に出席させていただきましたこと、お祝いとお礼を申し上げます。

私こと、明高卒業生の還暦会に出席ははじめてであり、皆様が立派な雰囲気があった立派になられたことに感動しました。

県立学校在職45年の中で、明石高校は15年間もつとめました。教科担任も、もたない私でしたが明高生との出会いは多くて、同窓会や結婚式も多数招かれ、我が子の成長を知るような喜びでありました。特に明高在職中の思い出は、24回生が信州方面への修学旅行で男子クラスの10組に乗車して、上高地方の活動であり、大正池から、あづき川べりを歩き、あの素晴らしい前穂高を正面にかっぱ橋から眺めました。

あの美しさは、忘れません。橋の周辺で故中村先生と昼食しましたこと。

そして先日の還暦会ではお目にかかれなかったことが、私にとって残念で10組の卒業生を眺めながら涙しました。「合掌」

立派な還暦会での卒業生は、先生の遺徳をしのんでおられることでしょう。

理事の河合昭彦様には、毎年「交叉点24」を送付して下さって、還暦会には、お世話をして下さったこともお礼申し上げます。

人間365日が何の心配も無いのは一日、いや半日はあったらそれは、しあわせな人間です。一日を一生と思って「生きる」「しっかり生きてきたか」つぶやいています。

私も高齢化して余命もないのですが、それなりの

日々感謝しつつ自分の身体管理に心がけて心のボタンをしています。

とりとめのないことで申し訳ありません。24回生の皆さまの健康と美しくとしをとって下さい。失礼しました。

「24回生の還暦を祝して」

角 正一郎



私が還暦を迎えたとき、よくぞここまで辿り着いたものだと感慨無量であった。

神戸の大水害で医療機器が水に浸かり、父は後始末がもとで腹膜炎を患い、享年33歳の若さで他界した。昭和20年には神戸大空襲があり何もかも

失った。栄養失調の私は母方の郷里である岡山の高梁市に移り住み、生き延びることができた。その後、生れ故郷の兵庫県に帰り、無事に38年間の教員生活を終えたとき、今まで生かされて来たことに感謝したものである。

現在60歳の方の生存率は男91%女95%だから、人生60年と云われた時代から比較すると随分長生きしている。「人生はこれからだ。還暦が何だ。余生をもっと楽しもう」と調子に乗って浮かれていると、自分の身に忍び寄る老化現象に気付くのが遅れることになる。

高齢になるに従って骨密度が下がるのは当然だが、サルコペニア症状を食い止める努力は欠かしてはならないと思う。あなた方が私より先にあの世に行って欲しくないからだ。

(注)サルコペニア

筋肉が著しく萎縮し脂肪量が増える状態を云う。筋力や握力が弱くなるため、転倒・骨折・歩行困難になる。予防には適度な運動と食生活では肉などのタンパク質やキノコ類に多く含まれるビタミンDを摂取することが効果的である。

京都大学大学院・医学研究科・人間健康科学系専攻助教 山田 実氏の「サルコペニアと介護予防」から抜粋。

「共育できた？」

加藤明江



私は3年前から千葉県市川市で暮らしています。夫の転勤で姫路→大分→大阪そして千葉にやって来ました。時の流れと共に赴任先で暮らし振りが様々だったようなので、改めて振り返ってみる事にしました。

〈姫路〉

大阪の短大卒業後姫路で就職。職場が近所だった夫と知合い結婚、共働き暮らしが始まりました。

そして妊娠7ヶ月で「仕事の代わりは居ても母親の代わりは居ない」と思い5年間のOL生活を終えました。

長男出産後は、家事や子育ての合間に子連れでママさんソフトに入れてもらったり、夜、夫に子どもを見てもらって習字教室に通ったりしていました。そして実家が近いのでちょくちょく孫の顔を見せに行け、新米主婦、母親には息抜きできるありがたい環境でした。

〈大分〉

結婚4年後に大分へ初めての転勤。

大分の第一印象は太陽の光が強く明るい事。

海有り山有り自然に恵まれ、子育てにうってつけです。

次男も誕生し、二人の子どもの成長に併せて隣接する小学校区内で3軒に住み替えました。

私の暮らしはここで膨らむ事になります。

・コープ

大分での2軒目で近所のコープの班が有り、共同購入されていたので入れてもらいました。しばらくして、担当の職員さんの「コープ商品の試食でクリスマス会をします」の誘いで運営委員を引受け、15年程の委員活動が始まりました。

「安心安全で美味しい食品を！」と畑や工場の見学、調理、実験等を通し暮らしの色々な事を学習できました。よく「無料のカルチャーセンター」と言われたものです。

そして、地域の組合員の代表として理事会に出席するようになると、非常勤ながらも経営責任を考えねばならず、一専業主婦には重く貴重な経験ができました。

・子ども劇場

コープの班の方が子ども劇場に誘って下さいました。

親子で会員になり会費を出し合ってお芝居、音楽、演芸等の舞台を楽しみます。舞台は勿論、子どもの反応を観るのも面白い。舞台や会場の準備や片付け、チケットもぎり等を順番でお手伝いするのも楽しみです。

この会の運営にお母さん達も携わるのですが、私はここにも関わり、息子達が大学生になって家から出て行った後も、若いお母さんや子ども達とワイワイ楽しんでいました。

〈PTA〉

「子ども一人につき一回は役員を」の掟？から早く逃れようと思い、長男が小2の春に人前で話さなくてもよさそうな広報委員を引受けました。

広報紙作りは委員同志のおしゃべりが大切で、慣れると楽しく達成感も有りすっかりはまってしまい、息子達が高校卒業迄に6年間やらせて戴きました。

他にも役員決めの時の沈黙に耐えられずに引受けてしまい、毎年のようにPTAお婆さんをしていました。

おかげで学校を身近に感じる事ができ、息子達や教育の見方にいい影響を及ぼしたと思います。

この様に、コープ、子ども劇場、PTAに長く関わったのは、やりがいを感じたのは勿論、専業主婦だということ、断る理由と勇気がなかったからだと思います。

どれも続けているうちに活動の幅が広く深くなり、必要に迫られて生来の引っ込み思案も直り元気なお婆さんになりました。

夫に支えられながらの「子どもと共に育つ共育」の場でした。

〈大阪〉

大分で19年経った頃に大阪へ転勤です。ようやく3年6組の同窓会に出席でき、高德先生はじめ懐かしいお顔に会えました。

東京と福岡で学生生活を送っていた息子達が就職すると大阪勤務になり、久し振りの嬉しい一家団欒です。

私は大分での3つの関わりが途切れてしまい、寂しい一方で解放感もありました。

そこでこれを機に大分とは違った生活をしようと、25年振りに働こうと思いました。時代の流れに追

いつこうとパソコン教室に通いました。でも年のせいか？パソコンを使う仕事は無理でしたが、パートと大分からの趣味を続けました。

大阪が終の住みかと思い6年が経ち、夫が定年を迎える頃嘱託で4年の予定で東京勤務になりました。

〈千葉〉

東京は家賃が高いので、千葉県の中で一番東京に近い市川市にやって来ました。

年金支給迄の間、夫が働いてくれるので大いに助かっています。私は「所詮4年間」と思うからか新しい人の繋がりがなかなかできていません。今迄の趣味とパート勤めを続けながら、夫とおのぼりさん見物を楽しんでいます。

しょうもない事をダラダラと書いてしまいました。また、恥ずかしくて書きそびれたのですが、色々思っているうちに失敗した事、私の欠点が浮き出てきて苦笑いや冷汗が頻りでした。これを機に良かった事、残念だった事を、これからの加齢に生かせればと思っています。

同期生の近況（2013年5月）

2013年5月3日「還暦同窓会」欠席者の近況です。限られた紙面で一人でも多くの方の近況を乗せるため、文章をかなり独断ではしりましたが、それでもとても今回の「交叉点」に全員分は掲載できませんでした。残りは来年度の「交叉点」に掲載させていただきますので、ご容赦下さい。

* 敬称はすべて略させていただきました。

福家（木村）恵津子「いろいろとご面倒をおかけしましたが、やはり出席はむずかしいです。いよいよ還暦を迎え、仕事もひとつの区切りを迎える時かと日々、主婦との2足のワラジをぬぐべきかと考えるようになりました。少々、わがままな人生もいいかも…と思うこの頃です」

辻 敏明「これまでの人生1/3が関西、1/3関東、1/3海外。今も仕事は海外での仕入れ指導。子供二人は既に結婚し、孫も二人に。父兄が早く亡くなった為、関西に行く機会がない。何度か海外で交通事故や暴動に巻き込まれ、生きて来れたのが不思議なくらい」

亀野（下谷）祐子「夏には4人目の孫が誕生する予定です。体力には自信がありませんが、忍耐力で

孫育て、がんばりたいと思っています」

足立（浜田）真知子「大阪の長家再生の家にアトリエをつくってひっこしました」

大曲（速水）寿美子「20年間東京目黒に暮らし、40代後半から国際交流協会外国人相談員や中学校非常勤講師をし、数年米Uターンして参りました。中尾先生はじめ諸先生方、旧3-7、旧ESSの皆さんによろしくお伝え下さい」

坂田賢吾「西新町で整形外科クリニックを開業して今年で10年になります。まだまだ元気で頑張ります」

卯田（永田）順子「昨年12月に父、今年2月に母が続けて亡くなりました。又、4月末に娘が出産予定で東京から里帰りしております。出産の頃なので、残念ですが、参加できません」

幸島（関井）良江「もうすぐ初孫が産まれます。専業主婦で過ごしましたことに後悔しつつも、楽しくやっております。明高時代の話をしながらか、旧姓黒田比佐子さんとよくランチに行っています」

松尾（橋）洋子「岡山に住んで10年になりました。一時期は関東に住みつかなかと思いましたが、結局西日本に帰ってくることになりました。明石にはちよくちよく帰っています。瀬戸内は暮らしやすいです」

榎本（畑）真知子「主人とふたり、ゆっくり、のんびりの生活を送っております。老後の体力の低下予防のため、世の中の人に負けないくらいサプリメント、ジム通いにもがんばっております。(笑)」

林（中西）昌子「短い時間を見つけるとは、コースに参加したり、大好きな読書をしたり、自分の時間を大切にしよう頑張っています」

林田行二「自営業とアルバイトで昨年4月から夜間警備に就いています。一晚2回の巡回で10km以上歩くので、心身ともに良い感じで頑張っています」

大西弘幸「教師業は10年以上前にやめて、今は売れない画家です。もう30年住んでいる西宮で、美術協会の理事をしています。音楽も続けています。プロとアマチュア混合メンバーのオケで指揮者をしています」

森崎（中島）扶喜「30年来の花粉症に苦しみながら箕面で暮らしてします。私が調剤すると、きつと死人が出ると言われ、専業主婦のままです。明石

から毎年いかなごのくぎ煮を取りよせて、春を感じています」

角谷（谷）邦子「40歳ぐらいまでは建築の仕事を少ししつつ、子育てと家事をこなしていましたが、現在は専業主婦。趣味の音楽とピアノでのんびりした生活を満喫しています」

三宅（水口）涼子「神戸の小学校勤務も後一年になりました。老眼に物忘れ…と、いろいろ仕事に支障がありますが、楽道家で、仕事を楽しんでいます。コーラス、水彩画等、地域の皆さんといっしょに元気にやっています」

廣田（安福）雅美「長男が昨年結婚しました。5月3日は、丁度沖縄に子供が連れて行ってくれますので、欠席します。6組の方、史学部の方、御会いできる機会がありましたら、又、いつか、お目にかかりたいです」

馬場滋夫「2011. 3. 14車で仙台までガソリン、物資を届けて来ましたが「ボランティア登録」をしましたが、2011. 4. 30白馬岳スキー登山に行って、滑落遭難。25時間後にヘリで救助してもらいました。背骨（第3、第5 胸つい）の破裂骨折でしたが、手術、リハビリを経て奇跡的に復帰、ボランティアに行ってきた」

重永（香川）美加「7年前に父、そして昨年母、たった一人の兄とあいついで天国へと見送り悲しい思いをしていましたが、神様は新しい命（孫2人）を家族に加えてくださいました。悲しみの中から立ち直させてくれた家族、友人達のすばらしさをひしひしと感じています」

山本（井上）道子「西明石で幼児教室をしています。幼稚園に入園する前の小さな子どもたちと一緒に楽しく遊んでいます。卓球をしたり、〇〇〇さんのコンサートに行くことが私の元気のもとです」

岸本（黒田）比佐子「子供二人はそれぞれ家庭をもち、主人と二人だけの生活に戻って、孫が遊びに来てくれるのを楽しみにしている毎日です」

（以下は次回掲載させていただきます）

事務局からのご連絡

・「2016年同期会のお知らせ」

2年後の「2016年同期会」は谷ロー彦代表幹事、伊与田賀弘幹事、高月孝之幹事の三校長トリオで企画中です。ご期待ください。

・住所不明者* 情報提供をお願い致します

2013年11月現在（敬称略）

1組 坂本隆彦 八木義孝 泉谷恵子 橘 洋子 2組 安藤悦郎 竹村郁子 3組 北田雅福 高橋英樹 土島日出彦 増子 隆 藤永みどり 秋定和子 平野由美子 鈴木佳子 4組 奥野好隆 田村政一 仲井 透 大泉尚子 山口哉子 5組 大村直樹 長谷川俊広 山本和彦 平山登志子 中川ゆかり 魚住篤子 6組 米谷嘉子 7組 足立真知子 近藤恵子 富岡るみ 森江真岐子 盛井雅子 8組 諸岡宗司 山崎清孝 田中英子 9組 魚住一裕 加藤和宏 10組 久山哲広 西森正二

事務局 河合昭彦 kawai@dokikai.net

〒674-0051 明石市大久保町大窪1000-1

Tel 090-8659-5628 Fax 078-934-1667

注) 河合に連絡いただいた住所はサラトに連絡しますが、サラトに連絡された住所は河合には届きません。

・24回生のページのご案内

明高24回生の会員制のサイトです。

<http://m24.dokikai.net/>

URLを開き、右側の「ログイン」の下にある「新規登録」をクリックすると「ユーザ登録」画面が出てます。河合が同期生であることを確認後、すべてのコンテンツを御覧頂けます。

現在、24回生卒業アルバムをアップしています。

・メールアドレスをお知らせください

携帯、PCを問いません。下記アドレスにメールを送っていただければ登録します。頂戴したメールアドレスは、同期会の連絡用のみ使わせていただきます。

m24@dokikai.net

*QRコードです。携帯でのご連絡にご利用下さい。(機種によっては使えません)



編集後記

皆様、原稿は常に募集中です。

引っ越しされた、転勤された、お孫様の話題等々、なんでも結構です。毎年、11月一杯を目途に集めた原稿を中村（守）がデザインし、大西（和）と私で印刷、2月の理事会でサラトさんに渡します。

11月中旬までに、メールもしくは郵送にて原稿をいただければ掲載できます。